令和６年度　兵庫県立伊川谷高等学校　学校評価

学校経営方針	夢の実現に向けて努力する生徒の育成 ―― 地域に愛され、地域に貢献する伊川谷高校――		
スクールミッション	「自主　協同」の理念のもと、目標を設定し、その実現に向け、自分をよりよく変えようとする意欲と、他者と関わり、自分の役割を自覚し、その役割を果たそうとする責任感を備え、夢の実現に向けて努力することのできる人材を育成する。		
重点項目	① 学ぶ意欲を引き出し、確かな学力を身につけさせる授業づくり	⑥ 質の高い教育活動を支える効率的な業務の推進	
	② 夢と主体性を育む体験活動の充実	⑦ 夢を見つけ、育て、実現に導く進路指導・キャリア教育の充実	
	③ 一人一人が輝く教育の推進	⑧ 友人と高め合い、周りの環境をよりよくしようとする主体性を育てる生徒指導	
	④ 積極的な情報発信と開かれた学校づくり	⑨ 部活動の充実	
	⑤ ふるさと貢献活動やボランティア活動の推進	⑩ 発展的統合に向けた適切・円滑な準備	

2025/2/13

領域	標語	分掌	重点目標	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	R6評価	R6の達成度	分掌
総務・生徒指導・保健・進路	充実した学校生活のために	総務	④ ⑩	発展的統合に向けた包括的な情報発信	・神戸学園都市高校の情報発信 ・国際交流事業の推進	1	・中学校訪問や伊川谷北高校での学校説明会等での協力体制の構築 ・学校案内を用いた職員研修会設定の設定 ・国際交流事業の神戸学園都市高校へのスムーズな引継ぎ準備	3.4	計画的な中学校訪問などから神戸学園都市高校の広報を計画的に実施できた。 学校案内などを用いながら、本校の職員にも随時情報を提供できた。 マレーシアとの国際交流事業の足掛かりを現地訪問などを通して整え、広報に活用し、募集に向けて準備を整えることができた。	総務
			⑥	災害・防犯を主体とした防災教育の充実	・防災マニュアルの見直し ・職員研修会の充実	3	・災害時の役割分担の見直しとフローチャート化 ・防犯の職員意識向上と生徒への啓発	3.6	防災マニュアルを現実に即した対応ができるよう見直した。 東南海沖地震に対応するため、自衛隊に協力を依頼するなど、防災行事の内容を中身のあるものに変更した。さらに新たな防災行事を検討して追加した。	
			① ② ⑥	図書館利用の推進	・朝の読書の充実 ・図書館利用の回数を増やす工夫	3	・朝の読書にとどまらず、総合的な探究の時間等で利用率をあげる ・図書館だよりの有効活用とイベント、コンペの開催	3.3	図書館利用者を増やすため、スタンプカードキャンペーンの実施や映画鑑賞会、GoogleClassroom「伊川谷高校図書館のへや」を開設し、図書館の情報を身近でリアルタイムなものにした。 図書館冊子「私の感動した30冊」を発行し、朝の読書活動の向上を図った。	
	未然防止・早期発見・早期対応	生徒指導・保健	⑧	生徒の主体性を育てる生徒指導	・あいさつ運動、登校指導 ・頭髪・服装指導、交通安全指導	4	・各学年・各部の教職員の協力を得て、毎朝、生徒昇降口付近でのあいさつ運動を利用して、頭髪指導・服装指導や交通安全指導を実施する。 ・風紀検査を学期に１～２回行い、学校生活での風紀面の理解を深める。	3.2	教員の協力のもと、あいさつ運動や頭髪指導・服装指導を積極的に行い、あいさつのできない生徒や服装面で指導を受ける生徒が多くみられるが、根気強く指導をした。 風紀検査は全職員で行い、風紀面の理解を深めた。	生徒指導
			⑧	安心・安全な学校づくり	・SNSの使い方等についての指導	5	・授業や講演会などを通して、SNSの使い方について深める。 ・SNSでのトラブルに対して、早期に対応できるように関係機関との連携を深める。	3.0	SNSの使い方については、授業中に使用する生徒、不適切使用などが見られるが、早期に対応し、学年の教員からの指導は、徹底した。	
			⑤	ふるさと貢献・ボランティア活動の推進	・清掃活動、神戸マラソンボランティア活動などへの参加	6	・生徒会が中心となり各学期にPTAと協力し、地域清掃活動を行うことで地域との連携をはかる。	3.5	１学年・生徒会を中心にPTAの協力のもと、ふるさと貢献活動を実施した。 ボランティア部などの文化部も地域活動等に参加した。 来年度については、部活動を中心に行いたい。	
			⑨	部活動の充実	・部長会議、部活動集会等	7	・生徒が主体的に取り組み、活発的に活動ができる意識を持たせる。　・長期休業前などに熱中症対策や応急手当についての説明を実施し、安全に活動ができるように努める。	3.1	各部活動、積極的に活動した。 長期休業前に安全面の集会を行った。	
	Beauty care, Beauty support		③	一人一人が輝く教育の推進	・スクールカウンセラーの活用 ・昼食時の生徒の居場所の確保	8	・保健室での相談内容を担任・学年に伝え、個々の生徒の指導に活かせるようサポートする。必要に応じ、キャンパスカウンセラーとの教育相談とも連携する。	3.4	保健室で知り得た内容を担任や学年、指導部で共有し生徒のサポートし、生徒対象に外部講師による講演会を実施した。	保健
			③	保健・安全指導	・保健だよりの配付	9	・保健だよりを配付し、感染症の予防や啓発に努めるとともに、自己の健康管理ができるように促す。	3.6	定期的に保健だよりを発行した。	
	夢の実現	進路指導	⑦	進路希望の実現	・進路実現にむけての情報発信 ・進路希望調査	10	・年度当初に全学年対象に進路希望調査を実施し、進路実現に向けて意識を持たせる。 ・情報誌の配布やオープンキャンパスの情報発信、進路通信の発行など、生徒の進路実現に向けて情報提供をおこなう。	3.5	４月に進路希望調査を行っているが、全学年とも未定の生徒が多数存在している。情報誌や進路通信、大学や専門学校から送られてくる資料などを提示して積極的な利用を促していく。来年度は、早めに進路を意識した動きができるように指導していく。	進路指導
			⑦	進路選択の支援	・外部機関の有効活用 ・インターンシップの実施	11	・外部機関との連携により、公務員、就職希望者に向けてのセミナーをおこなう。 ・インターンシップ、ワークキャンプへの参加を促し進路選択に向けての支援をおこなう。	3.3	今年度インターンシップに３年生２名・ワークキャンプに１年生３名、３年１名が参加した。また、春季休業中の看護体験では、２年生２名、３年生２名が参加し、夏季休業中におこなわれた看護体験には１年生５名、２年生１名が参加した生徒がいた。来年度も引続き参加を促していく。	
教務・情報	新たな前進	教務	①	基礎基本、個に応じた指導	・効果的な少人数授業、TT授業の研究・提案 ・様々な授業形態の情報提供	12	・生徒の興味・関心、進路に応じた教育課程を編成し、本校生徒に履修させるべき科目を設定する。 ・生徒の力に応じた基礎学力をつけるために少人数授業、習熟度別授業、ティームティーチングを実践する。	2.9	来年度は選択科目の精選を行い、生徒のニーズと教職員数などの変化を捉え、再度検討する。少人数授業、習熟度別授業、ティームティーチングの授業を実施している科目について、より効果的な講座内容を研究および協議する。	教務
			①	学力向上	・シラバスの作成 ・年２回の「学び合い週間」を効果的に活用し、学校全体での授業改善に努める。 ・公開授業、研究授業の実施	13	・シラバスを作成し教室に掲示し、各教科の目標や評価基準を提示する。 ・学びあい週間を効果的に活用し、略式指導案作成するなどの工夫をして、お互いの授業のよいところを取り入れることに努める。 ・研究授業において、研究協議を行い授業実践力を深める。 ・授業評価アンケートを実施し、授業改善につなげる。	3.1	来年度も授業を相互で評価できる環境づくりを進め、ICTを活用した授業の工夫と業務改善を促す。引き続き授業アンケートを１学期末と２学期末の２回実施し、アンケートの項目を授業の改善に活かせるよう内容等を見直す。 「学びあい週間」の参加者や授業アンケート実施数を増やす。	
			⑥	情報管理体制の確立	・校務支援システムの安定的運用	14	・校務支援システムを運用し、出欠、成績管理、指導要録、調査書の作成を一括して行う環境を整える。 ・成績報告会の資料の統一。	3.4	週報による出欠管理することで、生徒の正確な出欠の把握ができている。来年度も継続していく。	
		情報担当・IT担当・広報	①	ICTを活用した授業に向けた取り組みの実践	・ICTの活用技能を高めるための職員研修会 ・業者と連携した「デジ楽採点」活用に向けた研修会	15	・情報セキュリティ能力及びモラル向上のため日常の相談体制を充実させる。 ・考査後の成績処理をスムーズに行うためにデジ楽採点の普及に努め、教職員の負担を軽減できるようにする。	3.4	ICT教育委員会を実施し、導入すべきコンテンツの検討を行っていき、ロイロノートの効果的な活用法を促す。	情報
			④	本校の広報	・本校HPの定期的な更新	16	・Webページに特色、学校行事、部活動等多様な情報を定期的に更新し発信する。	3.3	行事や生徒の活躍をホームページにアップし広く外部に発信できた。来年度も引き続き発信していく。行事ごとに更新する。	
学年経営	夢への道をつくる	1学年（49回生）	⑧	互いに思いやり、尊重し合う	・日常生活を充実させる ・積極的な学校行事への取り組み	17	・集団の中でそれぞれがルールを守り生活することが、自分を大切にし、お互いのことも大切にできることを実感させる。 ・学校行事に全員で取り組むことで、お互いを尊重しあい、向上しあう存在を目指す。	3.2	高校生活にも慣れてくる中で、大半の生徒はルールを守り生活を送れているが、違反をする生徒も見受けられるようになってきた。遅刻や欠席が例年に比べ多く、生活習慣を身に着ける指導を行っている。行事には、積極的に取り組む姿勢が見られているが、その中での互いを尊重した行動に対して課題を感じる。	1学年（49回生）
			⑦	自身の進路目標を模索していく	・ポートフォリオの活用 ・進路学習の充実	18	・３年次の進路選択の際に、幅広い選択肢の中で主体的に道を選択できるようにポートフォリオでの記録の徹底や、進路学習での生徒自身の学びや情報提供を行う。	3.3	1年生のため、幅広い進路選択の中での進路を考えることに重きを置き、進路に関するLHRを計画的に行っている。１冊のポートフォリオに毎月の予定や成績、感想文などを書き込み、ふり返りを行っている。	
			①	基礎学力と学習習慣の定着	・小テスト、週末課題の実施 ・タブレットを用いた授業の充実	19	・自宅学習も含めた学ぶ姿勢を定着させ、課題提出の徹底や、小テストでのステップなどにより、「できた」「できる」などの肯定感を育成していく。	3.1	英語と国語の小テストを週に１回ずつ実施し、基礎学力の定着をはかっている。また未提出者に対する勉強会を行うことで提出を促している。２学期より、本格的に多くの授業でタブレットを活用した授業を実施している。	
	笑顔・夢	2学年（48回生）	⑧	自ら気づく個、集団に	・先の結果を想像して行動できる人間を目指す ・他者との円滑なコミュニケーションの実現	20	・物事の善悪のつかない失敗への対応強化と、以後の改善について共に考える。 ・生徒への指示は最低限に抑え、極力生徒自身が考え行動できる場を設定する。注意・指摘は言葉による聴覚からのみでなく視覚情報も活用することで、生徒自身が場の雰囲気を気づきやすい状況を生み出す。	3.0	修学旅行が終わり、本来であればを前に、自らの進路実現に向けて取組みを本格化していかねばならないところだが、修学旅行で燃え尽きた感をみせる生徒も複数みられ、学年全体の雰囲気に影響を及ぼしている感は否めない。学年末に向け、残された授業もわずかな中、今後どのようにして生徒に『大人』としての意識付けを行っていくべきなのか、試行錯誤が終わらない。	2学年（48回生）
			①	豊かな生き方に向けた学びの充実	・NIEの活用を通して社会の状況を学ぶ ・はがき新聞等の活用により自らの表現力を高める	21	・読み書きをメインに、今一度朝読の実施を徹底するとともに、毎週の朝日中高生新聞を活用し、活字を読む機会を増やす。 ・行事の感想やまとめ学習にはがき新聞を活用することで、文章力の向上とともに視覚情報を用いた表現力の向上を目指す。 ・年２回、はがきを書いて実際に投函することで、社会通念上の必要となる知識を体験より獲得する。 ・ネットにあふれる情報の真偽を見抜く力を付ける。	3.2	新型コロナの時期に中学生活を過ごしたせいか、自らの考えを表現することに苦手意識を持つ生徒が多々いる。このためNIEを始め、様々な学年、クラスの取組みで表現法について考えてきたが、まだまだ充分であったとはいえない。生徒が在籍する残り１年を最後の機会に、次年度持ち越し案件にはなるが、学年全体で頑張る所存である。	
			⑦	主体的な進路選択のできる生徒の育成	・職業を『知る』から希望する職業人に『なる』ための様々なプログラムを実施	22	・学年通信の活用、進路ガイダンスの活用、オープンキャンパスの活用などにより、生徒自身が様々な『仕事』やそれに繋がる『進路』について学習する機会を多分に設定する。 ・グローバル社会における日本の役割を、技能実習生との交流を通して学び、自身の進路決定に活かす。	3.2	進路選択についてはほぼ終わり、これからはその進路実現に向けて最大限の取組みを実施していく期間に移行している。しかし、未だに進路の定まっていない者も複数人おり、進路以前の「人としての生き方論」を必要としている気がしてならない。これらすべてに対応するには、教師はあまりにも無力としか言い様がないが、やれるところまでは今後も行っていく考えである。	
	かって one team 夢に向	3学年（47回生）	⑧	自ら考え行動できる生徒の育成	一人一人が意識を高く持ち行動することで全体の意欲向上につなげる	23	・一人一人が高い目標を持ち、日々実践することにより、他人や全体にも良い影響を及ぼすことを理解させ、各自の目標達成につなげる。	3.2	球技大会・体育大会などの行事では一致団結しルールを守りつつも、それぞれが十分楽しんでいたようで、満足度も大変高いと思われる。しかしながら、その後の学校生活の中で諸問題がよい方向に向かっているかと言えば、必ずしもそうなっているとは言えない面が多々ある。	3学年（47回生）
			①	好奇心を持ち、貪欲に求め、学ぶ生徒の育成	教科学習のみならず、将来の進路につながる学びをさらに積極的に求め、自ら探究する	24	・多くの情報源から真に必要なものを選び、自らの進路に結び付け、進路実現に向け、さらなる積み重ねをさせる。	3.1	進路実現に向けてタブレットなどを自分にとって有益に活用している者もかなり増えてきているようであるが、安易な受験などで早くに進路を決定したものなどはほとんど活用していないようである。	
			⑦	進路実現に向けて努力できる生徒の育成	各種進路行事の有効活用と実施	25	・各自の進路目標達成に向け種々の進路行事等を有効活用し、進路実現を図る。	3.2	各種説明会やオープンキャンパスなどは積極的に参加しているようであり、全体の参加率はかなり高いようである。そして進路決定の場面においてもおおいに役立っているようである。	
働き方改革推進	夢の実現を支える体制	教頭	⑥	教職員の資質向上とワークライフバランスの維持	・教職員の自己研修の奨励 ・超過勤務時間の削減 ・年休等の計画的取得	26	・教職員の自己研修をのための環境整備を進め、情報提供する。 ・全体の超過勤務時間を前年度から５％削減する。 ・年間の年休取得10日以上の割合を70%にする。 ・夏季休暇の完全取得。	3.2	ガルーンや掲示などで研修会等を積極的に案内した。 全体の超過勤務時間は前年に比べ微減したが、５％削減には至らなかった。 年間の年休取得10日以上は80%、平均15日であった。 夏季休暇は全員完全取得ができた。	働き方改革推進
			⑥	ICTの効果的な活用による校務の効率化の工夫	・ペーパレス化によるデータ集計等の効率化 ・朝の打合せや職員会議時間の短縮とその活用	27	・アンケートや調査は全てペーパレスにする。 ・ガルーンを更に有効に活用し、朝の打合せ等の時間を短縮するとともに、職員のミニ研修会を開催する。	3.3	会議のペーパレス化を図り、アンケートもほとんどをWEB回答とした。 ガルーンの活用を呼びかけ、朝の打合せ時間を短縮できた。次年度は、打合せの回数を減らし、更なる効率化を図る。 学期に一度の実施ができず、まとまって実施となったため、次年度は計画的に職員研修を実施する。	
発展的統合	統合に向けた準備	共通	⑩	発展的統合に向けた適切・円滑な準備	・職員会議や各部会等を活用した教職員間の情報共有、参画の推進	28	・伊川谷北高校と緊密に情報共有を行い、進捗状況について適宜職員会議などの場で教職員に提供する。。 ・両校の合同事業や交流事業への教職員の積極的な参画を進める。	3.1	定期的に実務担当者会を開き、合同の学校行事などで交流を図るとともに新しい学校の基礎となる内容を検討・決定した。神戸学園都市高校１回生を迎える準備ができた。 公表できる内容が少なく、教職員への情報提供は十分ではなかったが、今後も学校行事などを通して積極的に交流を進めていく。	発展的統合

【学校評議員からのご意見】
・進路支援、ICT活用、国際交流、防災教育など、幅広い分野での取り組みが見られる。一方で、生徒の生活習慣や進路意識、学力向上の面ではさらなる工夫が求められる点も見受けられた。
・進路希望調査やインターンシップ、オープンキャンパスへの参加促進など、生徒が主体的に進路を考える機会が確保されている。ただし、進路が未定の生徒が依然として多いことが課題となっているため、より早い段階で進路意識を醸成する指導が求められる。
・ICTを活用した授業が推進されているが、学力向上への意識は高いものの基礎学力定着の面でさらなる工夫が必要。少人数授業や習熟度別指導の研究を進め、より効果的な学習環境の構築を期待する。
・あいさつ運動や服装指導、SNSの適正利用指導など、規範意識の向上に向けた取り組みが行われている。一方で、遅刻や欠席の増加傾向については、より家庭や地域との連携を強化し生活習慣の改善を促してもらいたい。
・PTAや地域と連携した清掃活動やボランティア活動が活発に行われており、生徒の社会貢献意識の醸成に寄与している。来年度は、より多くの部活動を巻き込んで地域活動を推進しさらなる発展を期待する。
・連携できることはあるので、学校から地域への要望があれば申し出てほしい。